

私と「こころ文庫」と

図書館

小林 芳子

私が引越してきた当時は近くに図書館はなく、バスを利用して下保谷図書館へ行かないと本は借りられませんでした。

前に住んでいた日野では、バスの移動図書館がすぐ近くの公園に来るのでとても便利でした。

そんな時に、子どもの幼稚園のお母さんから、すぐ近くの保谷団地の中で本を貸してくれるという耳よりの話をきき、出向きました。それが「こころ文庫」でした。集会所の中で週一回、数人の女性が運営していました。その後、一緒にしませんかと声がかかりました。下の子どもが小さく昼寝をする時期でしたので困りましたが、ここで寝かせればという事で、何かホッとした気持ちになり、手伝うようになりました。ボランティア活動の第一歩でした。

団体貸出を利用するために月一回、下保谷図書館に行くのが楽しみでした。私が選んだ本を子どもが借りて行くことでもうれしい気持ちになりました。また、時には紙芝居をしたりもしました。子どもたちは、学校の事や友達の家や家の事を気軽に話して行き、街の中で会うと「こんにちは」と声をかけてくれる文庫のおばさんを

楽しんでいました。地域に根づいているのを実感しました。

でも、だんだん子どもたちが、おけいこ事や塾などで忙しくなり、借りに来る子が少なくなり、寂しく思っていました。

そんな時に、やっと念願だった図書館が西武柳沢駅前に完成し、文庫の役目を終了しました。

私と図書館のかかわりは三十年になります。今も個人として通い続けています。

図書館とわたし

湊谷 里沙

私が図書館を利用し始めたのはもう、かれこれ二十五年くらい前。図書館も、私の人生も始まったばかりの頃です。祖母に連れられて行ったのがはじめだったと思います。

その後、保育園の頃から小・中・高校生になるまで、図書館に行き、本を読んだり、カウンターにはりついて職員の方としゃべったりして過ごしてきました。職員の方たちにとっては仕事の邪魔だったかもしれないが、「本を読む楽しさ」や、「物語の中に入り込んでしまう感覚」そして、「最低限の公共マナー」を教えてもらいました。私の中ではとても楽しく、とても豊かな時間だったと思います。

その後、就職・結婚とあまり図書館に行く時間も無い日々をしばらく過

ごしていましたが、子どもが生まれて、母親の立場で図書館に久しぶりに来てみると、雰囲気が変わっていたので正直、ちよつと驚きました。

コンピューター検索や予約、インターネットでの貸し出しの延長など昔と違って便利なサービスも充実して、職員の手を煩わせることもなくなつたようです。しかし、カウンターに「ぶら下がり」をする小学生はいないようですし、職員の方に聞くと私たちの頃のように毎日来る子どももあまりいないようです。職員の数は昔より多くなつたように感じますが、前より余裕がなさそうで、なんとなく話しかけにくい感じでした。あの頃のすべてが良かったとは思いません



おはなし会

んが、なんだかちよつとさびしいなあと思えました。

図書館も蔵書がどんどん増えていて、人も大勢出入りしているのに、雰囲気を変化して行くのは仕方がないと思います。私も図書館に通つていくうちにだんだん慣れていくのかもしれないですね。でも、なるべくなら、いつまでも変わることのない居心地のいい場所であつて欲しいと思います。この先、何十年もたつて振り返つたときに「雰囲気はちよつと変わったけど、昔と同じ、居心地がいい場所だなあ」と思える図書館をつくつていつて欲しいと、期待しています。

「人の貸し出しを！」

旧田無市立中央図書館初代館長

帯川 要

絵本、童話の読み聞かせが普及してきたことは、いろいろな方面から伝わってきます。町の母親との立ち話でも話題になっています。ここまでできたのですから、さらに拡げたいものです。

いっぽう、三十年前、西東京市の図書館の設立に加わつた職員の皆さんは、数年の間に定年となる人も少なくないと思います。三十年蓄積した経験を、さらに、市の図書館活動に活用しないという手はありません。

人事上の手続きは、臨時職員でも、シルバー事業団など、検討してみ

ください。
 児童館、幼稚園、学校、地域の子ども会などから求めがあれば、前記職員が、早速でかけて実演する(人の貸し出し)といった体制を整えたいものです。

もうひとつ、中学校に働きかけ、読書クラブ(朗読クラブ)を起こしてもらう。このクラブ活動にも時折、前記職員が参加する。

このクラブに期待するのは、忙しい母親に、時折、子どもが本を読んでもあげる(親と子の読書運動)、古典や外国文学など、原文、原語で朗読したり、親と一緒に朗読できたら、なお、すばらしいと思います。

小さい子どもへの読み聞かせ、老人ホームなどでの朗読、対面朗読など活動するフィールドはいっぱいあると思います。

図書館利用者と図書館員との交流から新たな図書館活用の創造を

旧保谷市図書館初代館長

黒子 恒夫

誰もがいつでもどこでも自由に資料・図書・情報を手にする事の出来る民主主義の知る権利を保障する自治体の一つの砦として発足した図書館。カウンターを中心とした場での市民・利用者と図書館職員との相互交流で育ってきた。市行財政の理解、都や市町村図書館による図書資料な

どの相互協力提供ネットワークも支えになっている。それがごく当たり前のものとなった三十年の歳月。だが図書館はこんなものだど安堵しているところがないか。図書館は利用によって絶えず進歩する。

図書館が本来的に持つ機能・役割に気が付かず、知られず、十分に活用されていない。それは利用者がこれまでの利用領域に留まり、図書館側に新たなサービスを求めていないからであり、図書館は利用者の読書・知的自由を尊重して求めがなければ利用支援を遠慮してきたきらいがある。利用者が気軽に当然のこととして図書館に求めることができない雰囲気をつくっていた。打破するには、利用者が求めて図書館と協働で解決した事例をもっと例示し、活用する気にさせることである。

図書館員の専門性はあらゆる分野での図書館資料情報を探し出して提供することにある。情報検索の技術進歩はそれをより容易にさせたが、十分ではない。各専門分野での検索キーワードなどを学び知り、使いこなすことが必要である。日常各専門領域でそれらを行っている利用者から学ぶことで内容がより充実する。

図書館は利用者と図書館員が相互に知的交流をする場であり、それをおしすすめることで新たな図書館活用が創造され、図書館を新鮮なものにさせるのではないか。

田無市立図書館のあゆみ

田無市民福祉会館開館 図書室開室
 田無市図書館建設に関する答申
 田無市図書館建設に賛同する
 中央図書館開設準備室設置
 中央図書館開館
 田無市立図書館協議会設置

芝久保図書館開館

谷戸図書館開館

多摩北部都市広域行政圏(多摩六都)内図書館の相互利用開始

五市協議会圏内図書館の相互利用開始

田無・保谷共通貸出力ード発行開始
 中央図書館郷土・行政資料室開室
 田無市・保谷市合併法定協議会発足

西東京市図書館のあゆみ

保谷市図書館のあゆみ

公民館図書室による「ほうやこども文庫」誕生(公民館運営十市内10ヶ所)
 「保谷の図書館を考える会」発足
 「図書館の基本的な考え方」策定
 図書館準備室設置
 住吉公民館図書室が図書館住吉分室となる
 下保谷図書館開館
 特殊コレクション「原爆小文庫」開設
 図書館新町分室開室
 図書館中町児童館分室開室
 図書館ひばりが丘北児童館分室開室
 図書館ひばりが丘分室開室
 柳沢駅前公民館図書館建設検討委員会発足
 保谷市図書館協議会設置
 柳沢図書館開館

中町児童館分室、ひばりが丘北児童館分室開室
 多摩北部都市広域行政圏(多摩六都)内図書館の相互利用開始
 住吉分室、ひばりが丘分室開室
 ひばりが丘図書館開館
 五市協議会圏内図書館の相互利用開始
 田無・保谷共通貸出力ード発行開始
 特殊コレクション
 「原爆小文庫」をひばりが丘図書館に移設

田無市・保谷市合併法定協議会発足

田無市・保谷市合併

電算新システム稼動
 図書館ホームページ開始
 絵本と子育て事業開始
 3館で利用者用インターネットサービス開始
 貸出システム変更

合併後のあゆみ

